



埼玉県マスコット
「コバトン」

平成26年産

麦類の作柄概況



埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所

1 気象概況

(1) 気温

11月から2月まで平年並から低く推移した。3月からは平年並から高く、特に5月は平年に比べ1.6℃とかなり高くなった。

(2) 降水量

11月～1月、3月～5月上旬は降雨日数が少なく、乾燥気味であった。2月は二度の記録的大雪に見舞われ、所内ほ場においても2月8日～25日まで積雪があった。6月は上中旬に降雨が続き、300mmを超える多雨となった。全般には降雨の少ない期間が多かったが、11月から6月までの降水量は平年の132%であった。

(3) 日照時間

一時的には少ない期間もあったが、全般には多く、月別では全期間、平年並から平年より多かった。11月から6月までの日照時間は平年の118%であった。

(4) 熊谷地方気象台の観測記録

		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
平均気温 ℃	本年	10.9	6.1	3.9	3.7	8.7	14.0	19.8	22.9
	平年	11.2	6.3	4.0	4.7	7.9	13.6	18.2	21.7
	平年差	-0.3	-0.2	-0.1	-1.0	0.8	0.4	1.6	1.2
		低い	低い	平年並	低い	高い	平年並	かなり高い	高い
降水量 mm	本年	15.5	41.5	5.0	188.5	38.0	41.0	109.0	326.0
	平年	59.0	31.0	32.6	34.6	70.5	92.9	111.8	145.4
	平年比	26%	134%	15%	545%	54%	44%	97%	224%
		かなり少ない	多い	少ない	かなり多い	少ない	少ない	平年並	かなり多い
日照時間 h	本年	196.1	209.4	251.0	191.5	222.8	245.2	261.4	152.3
	平年	169.9	203.2	210.6	192.2	196.0	190.2	182.0	125.5
	平年比	115%	103%	119%	100%	114%	129%	144%	121%
		多い	平年並	かなり多い	平年並	多い	かなり多い	かなり多い	多い

*熊谷地方気象台「埼玉県の気象・地震概況」より

(5) 特徴的な気象と麦類への影響

特徴的な気象	麦類への影響
・ 11月～1月の低温、少雨	・ 麦の生育遅延、12月播種ほ場の出芽遅延
・ 2月の大雪	・ 麦の生育遅延、穂数減
	・ 排水不良ほ場での湿害
・ 3月～5月の高温、多照	・ 生育の回復、登熟の促進
・ 6月上中旬の長雨	・ ピール麦の穂発芽発生、小麦の外観品質低下
	・ 収穫の遅延

2. 作柄概況

(1) 水田農研 生育相調査結果

本年産から「農林61号」を「さとのそら」に、「はるな二条」を「彩の星」に切り替えて実施した。なお、「さとのそら」の平年値は過去3カ年の平均であるが、本年と耕種概要が異なるため、参考平年値とした。

ア 小麦（さとのそら）

出芽、苗立は良好であった。

播種時から1月までは低温、少雨のため、葉位の進展は遅れ、分けつ、生育量とも参考平年値を下回って推移した。さらに2月の大雪により二週間以上にわたって雪の下にあったため、生育は著しく遅れた。3月以降、高温、多照により遅発分けつが多発したが、有効化したものは少なく、穂数は参考平年値を下回った。

茎立期は参考平年値より13日遅かったが、高温により葉位の進展が早まり、出穂期は1日遅れにとどまった。

登熟は高温、多照により順調に進み、成熟期は参考平年値より3日早まった。

収量は、穂数が参考平年値を大きく下回り、参考平年値比93であった。ただし、精子実重で665kg/10a得られており、前年の「農林61号」の平年収量（509kg/10a）比では131と多収である。

イ 大麦（彩の星）

出芽、苗立は良好であった。

小麦同様、播種時から生育は遅れ、草丈、茎数、葉位とも平年を下回って推移した。3月以降、遅発茎が多発したものの、夭折が進み、穂数は平年を下回った。

茎立期は平年より13日遅く、葉位の進展も大きく遅れていたが、主稈総葉数が減少したことから、出穂期は平年の2日遅れにとどまった。

高温により急速に伸長したため、風乾歩合の低い軟弱な生育となり、倒伏が発生した。

登熟は高温、多照により順調に進み、成熟期は平年より1日早まった。

穂数、1穂粒数が平年を下回り、m²当たり粒数が少なかったことから、干

粒重は平年を上回ったが、精子実重は平年比 94 であった。ただし、整粒歩合は高く、整粒重（2.5mm 以上）は平年比 101 であった。

（2）県内全般

本年産から、小麦はこれまで主力品種であった「農林 61 号」が「さとのそら」に切り替わった。

播種作業は、11 月上中旬に数日降雨があったものの、降水量は少なく、概ね順調に進んだ。適期播種されたほ場では出芽、苗立ちは概ね順調であったが、遅れたり、播種深が深いほ場では、低温、乾燥により出芽が 1 月になったほ場も見られた。

生育は所内同様、低温、少雨、また、2 月の大雪により遅れ、草丈、莖数とも平年を下回って推移した。積雪により河川敷など排水の悪いほ場では湿害が発生した。3 月以降の高温、多照により生育は回復傾向となったが、遅れをとり戻すには至らず、穂数は少なくなった。

出穂期は平年並～3 日程度遅くなった。

登熟は好天により順調であったが、6 月上旬の長雨により、ビール大麦の一部で穂発芽が発生した。

収穫は大麦は概ね平年であったが、小麦は 6 月の降雨の影響でやや遅れた。

収量は昨年、一昨年に比べ穂数が少なく、同品種間で比較すると、低収であったと思われる。しかし、小麦は本年産より主力品種が「農林 61 号」から「さとのそら」に、ビール大麦は昨年産から「みょうぎ二条」から「彩の星」に切り替わり、いずれも多収品種であることから、農林水産省の作況調査では平均収量（原則として直近 7 箇年のうち、最高及び最低を除いた 5 箇年の平均値）を上回ることが期待される。

表1 耕種概要（水田農研 生育相調査）

播種様式	条間 (cm)	麦種	品種	播種期(月日)		播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
				本年	平年		元肥	追肥
ドリル播	30	小麦	さとのそら	11.11	11.9	5.9	6	4
		二条大麦	彩の星	11.11	11.9	5.5	7	2

注) 1.さとのそら平年値は、過去3年間の平均値、ただし播種量8kg/10a。彩の星平年値は過去2年間の平均値。
2.追肥時期 さとのそら:出穂14日前、彩の星: 茎立期

表2 生育調査（水田農研 生育相調査）

品種		出芽期 (月日)	苗立数 (本/m ²)	苗立率 (%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期調査			倒伏 程度
							稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	
さとのそら	本年	11.24	142	90	4.18	6.6	78.9	8.0	611	0
	平年	(11/21)	—	—	(4.17)	(6.9)	(87.0)	(8.5)	(859)	0
	平年比(差)	(3)	—	—	(1)	(-3)	(91)	(94)	(71)	—
彩の星	本年	11.23	103	89	4.8	5.21	87.9	6.0	697	1.0
	平年	11.19	133	94	4.6	5.22	88.4	5.8	790	0.8
	平年比(差)	4	77	-5	2	-1	99	103	88	—

注) 1.「さとのそら」の平年値は過去3カ年の平均であるが、本年と耕種概要が異なる(10a当たり播種量8kg、
基肥8kgN、茎立期追肥2kgN)ため、平年比(差)は参考値とし、カッコ内に記した。以下同様。
2.倒伏程度は0~5の6段階評価

表3 収量及び収量構成要素（水田農研 生育相調査）

品種		藁重	精子 実重	整粒重	有効 穂数	1穂 粒数	m ² 当 粒数	千粒重	1リットル 重	整粒 歩合
		(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(本/m ²)	(粒)	(千粒)	(g)	(g)	(%)
さとのそら	本年	560	665	661	601	27.4	16.4	40.7	829	99.4
	平年	(731)	(714)	(713)	(850)	(24.4)	(20.7)	(39.4)	(827)	(99.8)
	平年比(差)	(77)	(93)	(93)	(71)	(112)	(79)	(103)	(100)	-(0.4)
彩の星	本年	655	635	578	650	20.2	13.1	51.2	711	91.3
	平年	581	679	570	740	22.8	16.9	46.1	656	83.8
	平年比(差)	113	94	101	88	89	78	111	108	7.5

注) 1.精子実重は風選により屑麦を除いた重量、整粒重は篩選(小麦2.0mm、ビ-ル大麦2.5mm)後の重量。
2.整粒歩合は、篩選(小麦2.0mm、ビ-ル大麦2.5mm)による。
3.精子実重、整麦重、千粒重、1リットル重は水分換算値(小麦12.5%、大麦13%)。

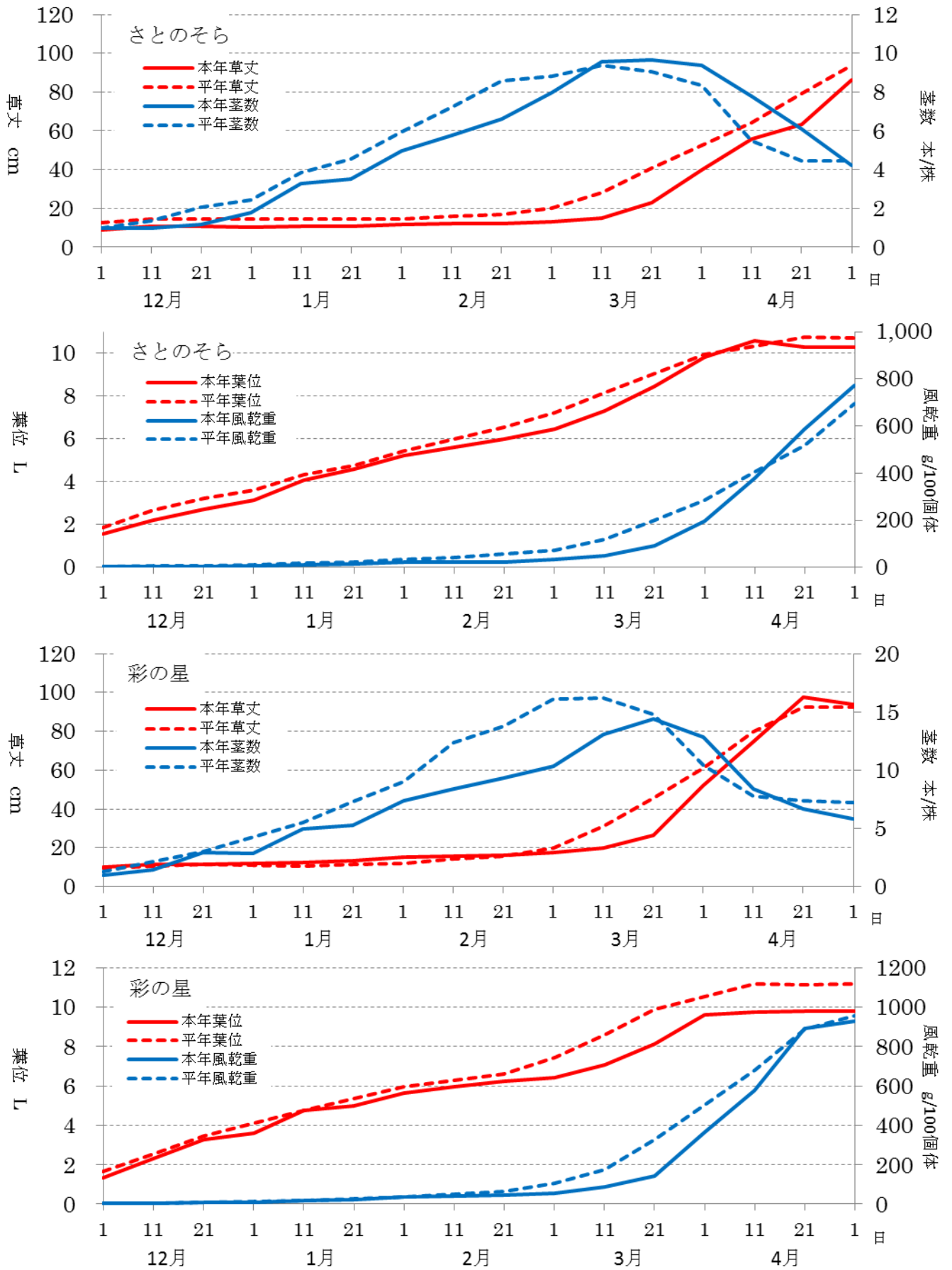
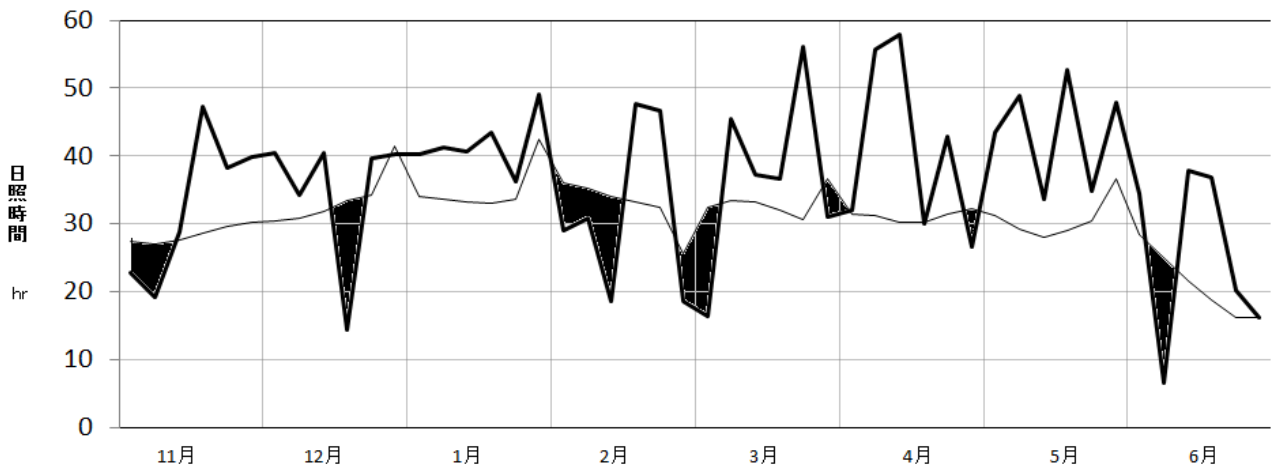
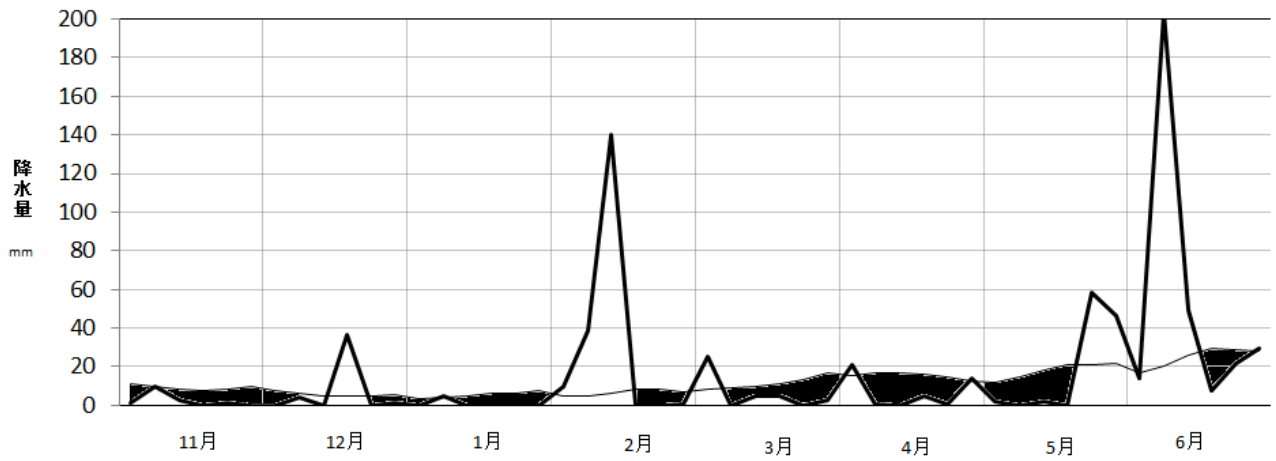
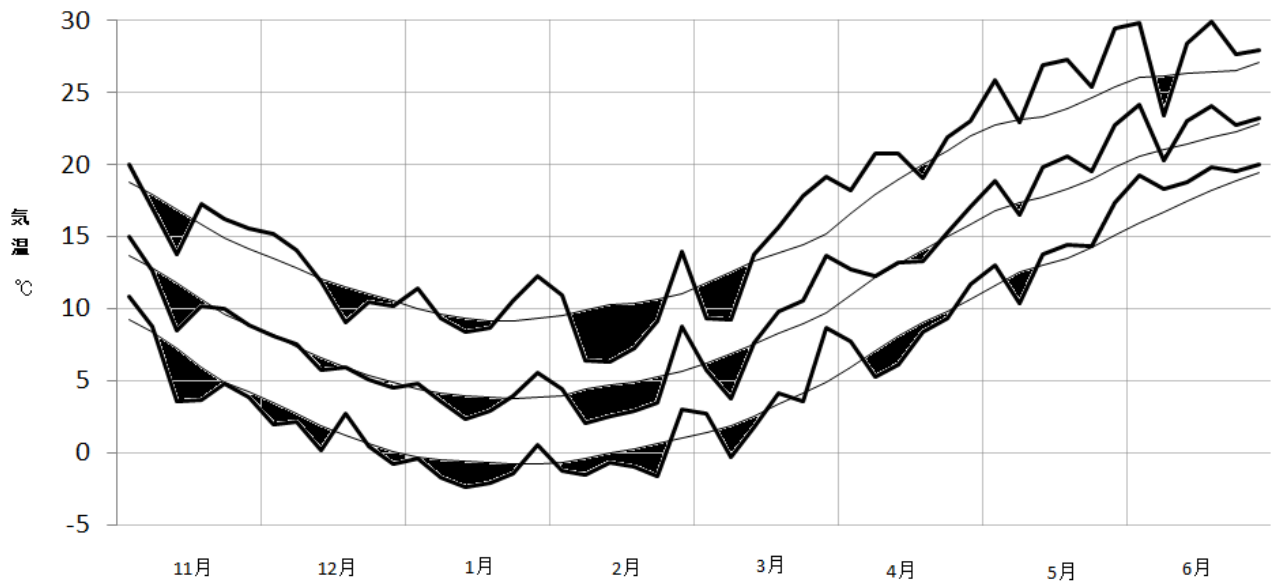


図1 生育経過



平成25年播(平成26年産)冬作期間気象図

(熊谷地方気象台日別データより作成)